

2011 年
第 23 回八大学 O B 大会

菱

RYOU

目 次

1 . ご挨拶	北海道大学 大会会長	後久 建二 3
	(1970 年卒)		
2 . 年度報告			
第 23 回八大学ラグビー - O B 親善大会報告	北海道大学 幹事校	野村 文明 6
平成 23 年度会計報告	北海道大学 幹事校	 8
試合結果	北海道大学 監事校	 9
3 . 各大学毎記念写真 & 参加者名簿			
北海道大学		 1 2
東北大学		 1 3
小樽商科大学		 1 4
東京海洋大学		 1 5
九州大学		 1 6
帯広畜産大学		 1 7
名古屋大学		 1 8
長崎大学		 1 9
4 . トピックス			
『スクラム釜石 ~ 2019 年ラグビー - ワールドカップ を釜石で ~ 』			
東北大学	1994 年卒 三笠 広介	 2 1
年末講演会 森重隆氏を迎えて	北海道大学	 2 4
年末講演会講演録 『ラグビーを通じて次世代へ』			
(記録) 帯広畜産大学	1980 年卒 小林 誠	 2 6
5 . 各大学投稿			
『北海道におけるラグビーチームの状況と全国の国公立大学の芝ラグビについて』			
北海道大学 2011 年度主務	山田 大志	 3 7
『学生時代から変化なし』	東北大学	1987 年卒 伊藤 学 3 9
『新・惑ラグビー - 元年、わが惑ラグビー - 生活』			
小樽商科大学	1974 年卒 木呂子 真彦	 4 1
『ラグビー 10 周年』	東京海洋大学	2010 年卒 小松 克偉 4 3
『「夢」ワールドカップ出場』	九州大学	1971 年卒 丸田 堅次 4 5
『元気いっぱいでした』	帯広畜産大学	1980 年卒 小林 誠 4 7
『八大学ラグビー O B 会に寄せて』	名古屋大学	1971 年卒 岡部 登 4 9
『日本ラグビーの未来は?』	長崎大学	1984 年卒 大森 謙太 5 1
6 . 編集後記	九州大学	1971 年卒 丸田 堅次 5 2

ご挨拶

2011年度大会会長 後久 建二

北海道大学 昭和45年卒

2011年3月11日に発生した東日本大震災により、被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。また、被災地の一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

第23回の八大学ラグビー親善大会は、その東日本大震災から未だ日が浅い、5月21日に東京海洋大学越中島グラウンドで開催されました。東日本大震災は未曾有の大惨事であり、ラグビー大会をする事の是非について議論を重ねましたが、ラグビー仲間が元気に顔を合わせ、復興に向けて気持ちが新たになればと言う思いも強くあり、開催を決めました。



幸い好天にも恵まれて、各大学から200名を越える参加者があり、皆元気にプレーし、けが人も軽傷2名を出すに留まり、楽しい一日を過ごしました。

今回の大会は東北支援を前面に出した大会であり、新日鐵釜石ラグビー部OBの高橋博行氏を含め3名の釜石シーウェイブス関係者が来場されました。復興に向けて活動を開始した同チームへの支援を呼びかけたところ、20万円余が集まり、同日その3名に手渡しました。また、同チームのセンター募集でも60名以上が新規に加入し、親善大会開催の意義は十分果たされたと思っています。

12月8日には、小山台会館をお借りして恒例の年末講演会が開催され、100名余の参加者がありました。講師の森重隆氏は、往年の新日鐵釜石の名プレイヤーであり、「ラグビーを通じて次世代へー高校ラグビーを指導してー」を演題に講演をして戴きましたが、臨場感あふれるお話は、森氏の人柄も出て楽しく、好評でした。

同じ楕円形のボールを追ったというだけで、老いも若きも仲間になって一つになれるラグビーと言う競技は、素晴らしいと思います。ただ、若い年齢層のOBの参加がもっとあっても良いと思いますので、各大学が増やす努力を続け、この大会が今後とも益々盛り上がり上がって行く事を希望します。

この1年間を振り返って見ますと、準備及び運営の不手際も多かったと思いますが、それをカバーして頂いた各大学のご協力に対し、深謝申し上げます。

2011 年度報告

第23回 八大学ラグビーOB親善大会報告

2011年5月31日

第23回八大学ラグビーOB親善大会
実行委員長 野村 文明（北大）

1. 日時 2011年5月21日(土) 9:50(開会式) ~ 17:30(閉会)
2. 場所 東京海洋大学越中島キャンパス第1グラウンド(寮地区グラウンド)
3. 参加者 204名
4. スケジュールと結果

9:50 開会式
大会会長あいさつ、スクラム釜石の紹介、レフェリー紹介



開会式



スクラム釜石の紹介

10:10 - 11:00	長崎大	5 - 15	北大
11:00 - 11:50	名古屋大	10 - 7	小樽商科大
11:50 - 12:10	over 60緑	7 - 17	over 60青
12:10 - 12:30	over 50緑	5 - 5	over 50青
12:30 - 12:50	over 40緑	0 - 10	over 40青
12:50 - 13:40	東北大	24 - 21	東京海洋大
13:40 - 14:30	九州大	63 - 0	帯広畜産大
15:30 - 17:30	懇親会(85周年記念会館) レフェリー講評、釜石シーウェイブス(SW)に 支援金贈呈 各校エール交換		

5. 負傷者

東京海洋大OB(40代)=右肋骨骨折(救急車で搬送)
北大OB(40代)=肋骨ヒビ(3日後に診察し、判明)
引き続き各校に確認中ですが、5月31日現在、他に報告は入っていません。

6 . 概要

各校とも対抗戦の参加者が昨年より増え、他校から若干の応援を得つつも、いずれも単独チームを組むことができました。

また、昨年の40超・50超の試合に加え、今年は60超の試合を行いました。できるだけ年齢別のカテゴリーに分けることでケガの防止を図りました。その分、各カテゴリーの出場者は昨年より減少しましたので、前後半を戦うことは避け、15分1セットとしました。

50超の参加者が比較的多く、40超、60超の応援に回った参加者も数人単位でありました。このため、不惑ルールによる2階級差のタックル禁止は今年も実施しました。

今大会では、東日本大震災の被災地支援の一環として参加者から支援金一口1千円を募集しました。また、新日鐵釜石ラグビー部OBの高橋博行・スクラム釜石（釜石SWの支援組織）事務局長、黒滝豊・同事務局員、三笠広介（東北大）・同事務局員の3人が大会会場に来場し、釜石SWサポーターの申し込み受付窓口を設けたところ、60人以上の個人会員が新たに登録しました。

支援金20万1千円は、試合後の懇親会で大会会長からスクラム釜石の3人に手渡しました。



支援金をスクラム釜石へ

2011年度8大学ラグビーOB会 会計監査報告

収入	金額	支出	金額	収支
前期繰越金	715,286			
第23回親善ラグビー大会				
参加費 204名	771,000	親善大会関係	170,731	
		懇親会関係	321,904	
		支援金	201,000	
小計	771,000		693,635	77,365
講演会				
参加費 88名 × 3,000円	264,000	講演会関係	107,285	
一般参加費	3,000	懇親会関係	218,870	
書籍売り上げ	69,200	雑費	96,472	
2次会参加費	80,000			
小計	416,200	小計	422,627	▲6,427
その他				
利息(2/21)	63	引き継ぎ物品宅急便代	2,740	
利息(8/22)	58	緑丘会館映写設備代	10,000	
		キャッシュカード発行手数料	1,050	
		土橋氏に振り込み手数料	210	
小計	121	小計	14,000	
総計	1,902,607	総計	1,130,262	
次期繰越金			772,345	

本件の決算にあたり、帳簿類等を精査した結果、

適切に処理されているものと判断する。

平成24年2月8日(水)

東北大OB
長崎大学OB

北嶋知枝
伊藤正




八大学ラグビーOB会親善大会 OFFICIALS CARD				
GAME# 1		PLACE: 東京海洋大学		
DATE	2011/5/21	START:	END:	
北海道大	TEAM	長崎大		
	COLOR			
	CAPT			
	TOSS			
前半	後半		前半	後半
10	5	TRY		5
		TFP		
		PG		
		DG		
10	5	TOTAL	0	5
レフェリー：飯岡信彦				
タッチジャッジ：		記入者：北大 斎藤		

幹事校 北海道大学

八大学ラグビーOB会親善大会 OFFICIALS CARD				
GAME# 2		PLACE: 東京海洋大学		
DATE	2011/5/21	START	END:	
名古屋大	TEAM	小樽商科大		
	COLOR			
	CAPT			
	TOSS			
前半	後半		前半	後半
	10	TRY	5	
		TFP	2	
		PG		
		DG		
0	10	TOTAL	7	0
レフェリー：鷹野秀明				
タッチジャッジ：		記入者：北大 斎藤		

幹事校 北海道大学

八大学ラグビーOB会親善大会 OFFICIALS CARD				
GAME# 3		PLACE: 東京海洋大学		
DATE	2011/5/21	START:	END:	
over 6 0 A	TEAM	over 6 0 B		
緑	COLOR	青		
	CAPT			
	TOSS			
前半	後半		前半	後半
5		TRY	15	
2		TFP	2	
		PG		
		DG		
7		TOTAL	17	
レフェリー：藤島保雄				
タッチジャッジ：		記入者：北大 斎藤		

幹事校 北海道大学

八大学ラグビーOB会親善大会 OFFICIALS CARD				
GAME# 4		PLACE: 東京海洋大学		
DATE	2011/5/21	START	END:	
over 5 0 A	TEAM	over 5 0 B		
緑	COLOR	青		
	CAPT			
	TOSS			
前半	後半		前半	後半
5		TRY	5	
		TFP		
		PG		
		DG		
5		TOTAL	5	
レフェリー：島田章則				
タッチジャッジ：		記入者：北大 斎藤		

幹事校 北海道大学

八大学ラグビーOB会親善大会 OFFICIALS CARD							
GAME# 5		PLACE: 東京海洋大学					
DATE 2011/5/21		START:		END:			
over 40 A		TEAM	over 40 B				
緑		COLOR	青				
		CAPT					
		TOSS					
前半	後半		前半	後半			
		TRY	10				
		TFP					
		PG					
		DG					
0		TOTAL	10				
レフェリー：藤島保雄							
タッチジャッジ：			記入者：北大 斎藤				
幹事校 北海道大学							

八大学ラグビーOB会親善大会 OFFICIALS CARD							
GAME# 6		PLACE: 東京海洋大学					
DATE 2011/5/21		START		END:			
東北大		TEAM	東京海洋大学				
		COLOR					
		CAPT					
		TOSS					
前半	後半		前半	後半			
10	10	TRY	10	5			
2	2	TFP	4	2			
		PG					
		DG					
12	12	TOTAL	14	7			
レフェリー：飯岡信彦							
タッチジャッジ：			記入者：北大 斎藤				
幹事校 北海道大学							

八大学ラグビーOB会親善大会 OFFICIALS CARD							
GAME# 7		PLACE: 東京海洋大学					
DATE 2011/5/21		START:		END:			
九州大		TEAM	帯広畜産大				
		COLOR					
		CAPT					
		TOSS					
前半	後半		前半	後半			
25	25	TRY					
8	2	TFP					
		PG					
		DG					
33	27	TOTAL	0	0			
レフェリー：鷹野秀明							
タッチジャッジ：			記入者：北大 斎藤				

記念写真

北海道大学



参加者名簿：北海道大学

年	名 前	卒年	名 前	卒年	名 前
S45	後久 建二	S57	西村 裕一	H14	高橋 健作
S45	杉田 巖	S57	阿部 修司	H16	柏木 陽
S51	近藤 芳正	S60	斎藤 直樹	H19	矢野 貴大
S53	窪田 秀生	S60	森 俊之	H19	前田 洋樹
S53	島田 章則	S60	藤井 剛	H20	山本 隼也
S55	野村 文明	S61	夏井 貴史	H20	小野 泰之
S55	長尾 博	S62	青柳 秀夫	H21	大井川 央
S55	安達 隆	H05	木村 欣晃	H22	田島 政
S56	広瀬 歩	H07	西野 岩土	H23	新田 雅史
S56	高津 守	H08	新川 良次	H23	吹上 理顕
S56	向江 一彦	H12	佐藤 正典		

以上32名

東北大学



参加者名簿：東北大学

卒年	名 前	卒年	名 前	卒年	名 前
S 48	薬袋 啓一	S 62	伊藤 学	H 11	鍋谷 仁志
S 48	海野 晴夫	H 03	上田健一朗	H 11	佐藤 慎一
S 51	田中 直一	H 06	三笠 広介	H 13	泉山 英利
S 54	若狭 寿人	H 08	神谷 和作	H 19	永渕 啓
S 59	山内 陽仁	H 08	岩崎 敏彦	H 20	小ヶ口 彰寛
S 61	村上 進	H 10	岩川 賢太郎	H 20	岡田 尚也
S 62	北嶋 知樹	H 11	原 寛之		

以上20名

小樽商科大学



参加者名簿：小樽商科大学

卒年	名 前	卒年	名 前	卒年	名 前
S35	半田 次郎	S57	藤江 雅彦	H19	森岡 伸和
S38	池田 晃一	S57	高崎 明	H19	橋本 壮平
S42	酒井 克臣	S57	市原 昭一	H22	稻野 紋冬
S46	佐藤 貞直	S57	遠藤 雄二	H23	笠田 健太朗
S46	目黒 義昭	S59	海野 格		高崎 友人
S49	中島 文雄	S59	出村 泰樹		高崎 夫人
S49	木呂子 真彦	H05	佐々木 啓		藤江 夫人
S50	三浦 徹	H13	宮川 修		遠藤 夫人
S55	上坂 弘文	H16	田中 雄三		

以上26名

東京海洋大学



参加者名簿：東京海洋大学

卒年	名 前	卒年	名 前	卒年	名 前
S30	元山 泰秀	S51	石川 忠義	H08	小林 賢三
S35	吉岡 武彦	S53	吉永 辰雄	H08	松本 敏夫
S36	片山 俊彦	S53	中村 渡	H08	中村 謙介
S40	清水 宇門	S54	井上 正彦	H17	佐々木 洋介
S40	谷 文彦	S56	菅宮 幸夫	H17	鈴木 大
S46	藤原 成一	S57	黒岩 光之	H18	角屋 晴紀
S47	吉村 秀清	S58	横原 邦彦	H18	西郷 晃一
S47	後藤 憲幸	S60	関口 之宏	H18	大田 雄樹
S49	川島 康夫	H02	神村 修司		
S50	濱武 和夫	H02	小澤 慎二		

以上28名

九州大学



参加者名簿： 九州大学

卒年	名 前	卒年	名 前	卒年	名 前
S43	栗田 修一	S57	国武 幸伸	H19	高橋 英樹
S45	石井 三郎	S59	原 浩	H19	南 優児
S45	中村 恒美	S62	東田 外史	H21	川渕 雄大
S47	松岡 繁	H08	西村 秀樹		伊藤 伸市
S47	佐藤 徹法	H19	神田 賢一		
S47	久野 哲	H19	福島 吉孝		

以上16名

帯広畜産大学



参加者名簿：帯広畜産大学

卒年	名 前	卒年	名 前	卒年	名 前
S41	田中 一郎	S55	芝野 伸策	S58	田中 秀一
S48	中里 仁	S55	小林 誠	S59	市川 和義
S52	西村 勝美	S56	山口 恭史	H04	佐藤 賢司
S53	高畠 孝一	S56	赤山 晋一	H20	金子 真之
S55	大部 善之	S57	篠崎 晃司	H21	岡本 武史

以上15名

名古屋大学



参加者名簿：名古屋大学

卒年	名 前	卒年	名 前	卒年	名 前
S35	木内 幹夫	S63	大幢 勝利	H18	水野 雄介
S41	池田 兵衛	H02	小林 和義	H19	小澤 大志
S46	足立 俊夫	H06	服部 肇	H19	虎澤 裕大
S46	岡部 登	H06	森綱 健之	H20	飯島 渉
S46	星野 秀夫	H09	内山 大樹	H20	浦島 一晃
S52	浅野 利三郎	H13	神野 将志	H20	藤川 理大
S57	棚瀬 竜雄	H14	園田 哲平	H21	増地 亮太
S62	坂口 敏博	H18	久保 知也		

以上23名

長崎大学



参加者名簿：長崎大学

卒年	名 前	卒年	名 前	卒年	名 前
S42	足立 鉄生	S61	岸 剛央	H05	佐藤 栄司
S45	伊藤 正	S61	安成 貞彦	H06	松尾 邦俊
S45	吉田 一久	H01	古閑 健二	H07	多々隈 卓司
S48	飯盛 佳克	H02	江口 耕一郎	H12	倉富 雄三
S48	内田 恒夫	H02	隱崎 大山	H12	桑江 秀行
S48	平山 修	H02	紀伊 博孝	H14	田中 友樹
S49	柴富 邦史	H03	大窪 信一	H15	松林 輔
S49	田川 恵一	H03	片山 明也	H20	中山 彰
S52	福留 克己	H04	大澤 剛	友人	笠原 哲郎
S58	井上 勝康	H04	梶村 数弥	友人	柏原 角一
S59	大森 謙太	H04	門田 和義	友人	瀬戸口 開弘
S60	谷井 裕	H04	田中 統基	友人	高山 総司
S61	赤木 浩一	H05	今屋 統基	友人	原口 翼

以上39名

トピックス

スクラム釜石

～2019年ラグビーワールドカップを釜石で～

平成6年卒（東北大） 三笠広介

鉄と魚とラグビーの街、釜石。そこがわたしのふるさとです。

父が新日鐵に勤めていた私は、3歳～小3、そして中3～高校卒業まで、釜石で育ちました。釜石がふるさとであり、釜石でラグビーに触れた私が出来ることは何か？ 昨年の震災後、全国の、世界中の方々が、「自分たちに何が出来るか？」を考え、様々な方が、様々な形で復興支援に取り組んでいます。ふるさとを釜石を持つ私も同様に、毎日毎日、そのことを考え続けていました。まずは少しでも、小さなことからはじめよう、はじめることが大切だ、と考え、弟（東大ラグビー部・平成9年卒）とともに、学士ラガーのメンバーを中心に釜石シーウェイブスの支援をおこなうという組織を作ることから始めたのが昨年の4月ごろでした。

同じ頃、「ラグビー」・「釜石」を共通点として、同じような思いをもつ方々がいらっしゃいました。松尾雄治さん、石山次郎さんをはじめとした新日鐵釜石ラグビー部のOBの皆さん、釜石シーウェイブスの私設応援団の皆さん、新日鐵本社ラグビー部（NSCラガー）の皆さんのか、釜石ラグビー関連の著作のある永田洋光さん、大友信彦さん（ご本人も宮城県気仙沼出身）など、たくさんの方々が同じ思いを持っておられ、私たちもそれに加わり、その他、たくさんの方々のご協力、ご支援、ご声援があって、立ち上げられたのが「スクラム釜石」です。また、設立記者会見を丸ビルで行った際には、八大学ラグビー部OB会関係者の方にも、ご協力をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

スクラム釜石の活動については、Facebook, twiiter のほか、ホームページ（<http://scrumkamaishi.jp>）でも紹介させていただいております。

以下はスクラム釜石ホームページからの引用です。

スクラム釜石が目指す大きな目標、それはもちろん釜石・岩手・東北の被災地の復興です。その大きな目標のためにスクラム釜石が行なう活動のひとつは、ラグビーをはじめスポーツを通じた釜石・岩手・東北の復興支援活動です。ご存知の通り、震災、津波による被害は甚大です。尊い命、財産、美しい街並み。このようなかけがえのないものは永遠に失われてしまいました。被災地の方々が復興にかける労力は並々ならぬものとなり、復興までの道程は途方もなく長いものとなります。スクラム釜石が行なう、「ラグビーをはじめとしたスポーツを通じた復興支援活動」は、復興への力添えとしては微々たるものにしか成り得ないかもしれません、スクラム釜石は「自分たちに何が出来るのか」を常に考えながら活動してまいります。

2011年5月4日に、「完全復興するまで活動を続ける」という宣言のもと結成したスクラム釜石は、2012年3月、『特定非営利活動法人（NPO）スクラム釜石』として改めて発足いたしました。

釜石、そして東北の被災地全てが完全に復興するその時まで、ご支援・ご協力いただく皆さんとスクラムを組み、一歩づつ、少しずつではありますが、前進を続けてまいります。

スクラム釜石の具体的な活動としては、

釜石シーウェイブスRFCの活動をサポートすること。

2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップの試合会場誘致支援の2点が挙げられます。

再度、スクラム釜石ホームページからの引用です。

目指すはサポーター10,000人



書籍販売とスクラム釜石サポーター募集カウンター

2011年3月11日の東日本大震災の津波により甚大な被害を受けたまちのひとつである、岩手県釜石市には、ラグビー日本選手権で7連覇を飾った新日鐵釜石を母体として、地域の市民に支えられて活動してきたラグビーチーム「釜石シーウェイブスラグビーフットボールクラブ（以下 釜石シーウェイブス）」があります。

釜石シーウェイブスのスタッフや選手たちは自らも被災者でありながら、震災直後より支援物資の搬送、高齢者の移動などの救援・復興のボランティア活動に尽力しました。このことは各メディアを通じて、日本中の多くの方の知るところとなりました。

ところが、震災により釜石シーウェイブスのチーム運営は大変厳しい状況となりました。釜石シーウェイブスの遠征費、合宿費、選手活動費等、活動を支えてきたのは、地元のスポンサー企業、法人サポーター、2000人を越える個人サポーターの皆さんでした。

新日鐵釜石ラグビー部の時代から現在の釜石シーウェイブスに至るまで、「カマイシ」のラグビーチームは、地元釜石市民、岩手県、東北の方々のみならず、全国の皆様から暖かいご声援を受けて活動してきました。

試合会場をはじめ様々な場面で釜石シーウェイブスにいただく「カマイシ！」の声援。その声援が釜石シーウェイブスの力の源となり、その釜石シーウェイブスの活躍は、必ずや復興への力となることをスクラム釜石は信じています。

スクラム釜石が2011年5月に活動開始後、1年間で約1,000人の方々が、新たに釜石シーウェイブスのサポーターとして加わってくださいました。

スクラム釜石は、釜石シーウェイブスのサポーター数10,000人を目指し、活動を続けてまいります。

今後も、釜石シーウェイブスへのご支援、ご声援をお願い致します。

**鉄と魚とラグビーのまち” 釜石で世界一の戦いを。
だからこそ、釜石で見たい！**

2019年に、世界的スポーツイベントである『ラグビーワールドカップ』の日本開催が決定しています。2019年ラグビーワールドカップ日本大会では、日本全国の10都市で試合が開催され、2014年までに開催地が決定される予定です。（開催都市数、開催 地の決定時期などの詳細は未定です。）「鉄と魚とラグビーのまち」として知られる釜石市では、釜石でラグビーワールドカップの試合を開催することが、震災復興のシンボルとなり得ること、地域活性化による経済的な面からの復興促進、スポーツを通じた国際交流の促進につながるものであると考え、釜石での試合開催を目指し準備が進められています。スクラム釜石では、この夢を実現しようと、長期的な目標の一つとして、誘致活動支援を行なっています。

スクラム釜石の活動を始めてから、改めて気付いたのは、ラグビー、釜石、というキーワードに反応していただく方がとても多いことでした。私も参加させていただいている、この8大学ラグビー部OB会の皆様方にも、昨年の試合開催時には100人近い方が釜石SWのサポーターになっていただきました。ありがとうございました。

今後も、釜石シーウェイブス、スクラム釜石へのご支援を宜しく御願い致します。

年末講演会 森重隆氏を迎えて

年末恒例の講演会は、元新日鉄釜石主将・監督の森重隆さん（現福岡県立福岡高校ラグビー部監督）を迎え、平成23年12月8日に開催しました。

森さんの経験については紹介するまでもありませんが、新日鉄釜石ラグビー部に10年間在籍し、V7のうちV1からV4までの間を選手・監督として過ごされました。現在は、出身地の福岡で森硝子店の社長業を営むかたわらで、母校の福岡高校の監督として高校生の指導に当たられています。第90回全国高等学校ラグビーフットボール大会（2010/12 - 2011/1）に、福岡県の第2代表として福岡高校を率いて参加されたことは記憶に新しいところです。

講演の詳細は、帯広畜産大学OBの小林さんが別稿で書かれていますので、是非ご覧ください。



八大学ラグビーOB会は、東日本大震災の復興支援の一環として釜石シーウェイブスを支援する活動（スクラム釜石）に携わっており、その縁で森さんの講演会が実現しました。会場では、シーウェイブス関連の書籍3冊（「負けねっすよ、釜石：松瀬学」「釜石ラグビー栄光の日々：上岡伸雄」「オールブラックスが強い理由：大友信彦」）の販売が行われました。それぞれの著者の方々も参加され、購入した方々は本にサインをもらうことができました。売上金は全額、スクラム釜石に寄付されました。



サインをせがまれる森氏

今回も、会場は小山台会館を使用させていただきました。同会館は、都立小山台高校の講演会である財団法人小山台が運営しており、同校ラグビー部員を講演会に招待するとともに、会場設営等の補助をお願いしました。



最後になりましたが、平成 23 年度は北海道大学が幹事を担当いたしました。運営面でご迷惑をお掛けしましたが、皆様ご協力を有難うございました。2011 年はラグビーワールドカップがニュージーランドで開催されましたが、次回幹事を担当するのは 2019 年、ワールドカップ日本開催の年になる予定です。

2011年講演会

「ラグビーを通じて次世代へ」

~高校ラグビーを指導して~ (12月8日 小山台会館にて)

講師：森 重隆（もり しげたか）氏

略歴：1951年福岡市生まれ。福岡高校から明治大学を経て、1974年から新日本鉄釜石で活躍。主将・監督として日本選手権4連覇に貢献した。この間、日本代表の主将も務め、代表キャップは27。ポジションはセンター。現在は福岡市で株式会社「森硝子店」代表取締役社長を務めるかたわら、福岡高校ラグビー部監督として後輩の指導にあたる。日本ラグビーフットボール協会理事（世界8強進出会議メンバー）、福岡市教育委員。

念願の花園出場へ

どうもありがとうございます。恥ずかしいんですけど、来てしまったもので（笑）。

今日はちょっとラグビーの話をさせていただきます。私、今ご紹介いただいたように福岡高校の監督をしています。

昨年は福岡代表は2校出られたので、全国大会に行きました。今年は準決勝で東福岡高校とあたりました。東福岡高校はその前に、修猷館高校とやって、81対5でした。修猷館は同じ県立で仲がよかつたので、お前らちょっと仇敵ってくれなどと言われて、ラグビーなんてのは勝とうと思ってやらないと勝てないスポーツとして、向かっていったんですが、結局73対0で（笑）。修猷館には「俺たちは1トライとった」とか訳の分からないことを言われまして。「お前らゼロ」なんて（笑）。

でも、高校生といっしょに夢を追いかけてやっていると、いろいろ泣いたり笑ったりできるので、ほんとうにラグビーっていいなと、この60の歳になってつくづく思ったりもします。

ちょっと自慢話になりますけれども、去年の私、ちょうど今の時期は舞い上がっていまして、全国大会に行けるんだと。そのときの3年生が筑波大に7人進んでいます。その連中が1年で入ってきたときに、ひょっとしたら彼らが3年になったら花園に行けるんじゃないかと思っていました。東福岡を倒せるんじゃないかなと。その時点では福岡代表2校は決まっていませんでした。

私、実は16年監督をやってきました。高校の監督は、一番最後の県の予選で悔いの残らない試合をさせるのが最高の監督であると考えてきました。福岡県の予選、1回戦2回戦で負けたことももちろんありましたが、その連中がずっと行きたい行きたいとずっと思い続けていたことが去年につながったと思っています。

たまたまその代でセンターとウイングにいい子が入ってきました。しかし花園に行くには東福岡に勝たなくてはダメだと。去年の新人戦は小倉高校に負けました。次の九州大会では筑紫高校に負けました。その次が全国大会予選。それがちょうど全国大会が90回なので、どこか2校いけるということになりました。で、それは県の予選出場校が多いところだと。まず埼玉、愛知、神奈川、そして福岡だったと思います。なかでも福岡はいつも決勝で東福岡と筑紫が競って、それも僅差で。一昨年はたしか2点差で福岡はレベルが高い、という評価で、2校出場枠ができました。これはチャンスと。それでたまたま去年は筑紫が弱かった（笑）。7年連続東福岡と筑紫は決勝を競っていたのに。

で去年、第二代表を決める決勝戦は福岡と筑紫。それで勝って、28年ぶりの花園。初出場みたいなもん

です。

お金がいくらかかるかもわからない。OB から金を集め組織委員会なんかつくって、一口 1 万円とか。OB 会は 600 人ぐらいいますが、それでは間に合わないというので、企業を回って、結局千数百万集めました。やった、これあと十年間強化費に使えるぞと（笑）。

いいチームができた喜び

そういうことがありました、12月3日だったかに大阪で組み合わせ抽選会がありました。その前に私は仕事で東京に出張っていました。そこへ福岡の先生から電話が入りまして、「森さんすみません」と。聞けばキャプテンでフルバックの A（現筑波大 SO）が練習中、タッチフットで鎖骨を折ったと。「なにい？ タッチフットで？」「はずみです」「すぐ病院連れてけ」。でその後でまた泣きそうな声で電話があって、「頸の骨も…」（笑）と。「なにい！」すぐに帰りました。

で、鎖骨と頸の手術をいっしょにしようということになって、全身麻酔で。鎖骨が終わったら続けて頸と。終われば針金巻いて流動食です。見舞いに行ったら 3 年生がみんな来ていて、けがをさせたやつもいる。B 君といいます（笑）。そいつがベッドにいっしょに寝ている（笑）。「やったのは B、お前か」「はい」「お前がなればよかったのに」（笑）。「はあ、すいません！」なんて。

「おい A、大丈夫か？」「大丈夫っす」とはいえ、試合まで 30 日しかないです。グラウンドに戻ってきたのが 12 月 20 日。1 回戦は 27 日です。今日から練習。でも鎖骨にはプレートが入ったまま。練習とか試合とか、大丈夫かと聞いたら、やりますと。いやそりやできないだろ。たぶん大丈夫です（笑）。チームに戻ってきたんで、A がみんなに話すわけです。がんばると。その後ろのほうで B が泣いているんです。やはり自分がけがをさせてしまったという思いがあるんでしょう。僕は、ああ、いいチームになったな、とそのとき思いました。

話を戻しまして、抽選会に行きました。そういうことがあったので、いっしょに行ったのは C というバイスキャプテン。1 年浪人してやはり筑波を狙っているのが居りまして、彼の実家は医者なので医学部に行くと言ってがんばってる。抽選会というのは、皆さんご存じないかもしれません、まずシードがぽんぽんぽんと決まります。伏見工業、大阪朝鮮、流経大柏とか、国体とかそれまでの実績で決まっていく。そして、C がまず予備抽選に行きました、くじを引く順番が 2 番目か 3 番目。早いなあと。そしてひいたのが、いきなり大阪朝鮮の横の枠。お前あれだけ言ったのに（笑）。そりゃないだろ。彼は「すいません」。でも「まあしゃあない。一回戦勝って大阪朝鮮やつけるぞ」。くじは進んで、相手校のところがまだ空いている。「ここは当たりたくないですぅ」とかいいながら見ていると、本郷高校の番。「ふんふん、強いのか？」「東京だから強いと思います」そうしたら横に入ってきた。「いや、これは僕のせいじゃありません」（笑）「向こうが飛び込んできたんです」「だからお前が最初に…」（笑）。

で、1 回戦は本郷高校と 27 日に試合をして、最後に逆転トライを取って勝ちました。これはもう舞い上がったですね。僕は今まで、釜石の人にはわるいですけど、やっぱり自分ができなくて勝つチームをつくるってのはうれしいなど、そのとき初めて感じました。次は大阪朝鮮。これがめちゃくちゃ強かったです。センターの選手がうちの試合で脳しんとうを起こして、その後試合に出られなくなってしまった。結局優勝はできませんでした。最後は桐蔭と東福岡が両校優勝になるんですが。

そういうふうに、全国大会を戦えて、高校の監督をやっていてよかったですとつくづく思いましたし、子どもたちといっしょに泣いたり笑ったりすることが人生にとって非常に大切なことだと、去年わかりました。

タックルしかない

どうして僕が監督をやったのかは後ほど話しますが、ほんとうに、みなさんもラグビーをして、何十年もたって、今こうして集まっているらっしゃるということが本当に意義あることだと思いますし、酒を呑んでも、いつでも昔の話が出ますよね。あいつはタックルしなかったとか言い合ったりして。タックルしなかったというのは非常にバカにした言い方で、これはもう全人格を否定するようなもので(笑)。

それでタックルといえば、いま大学の監督で一番わかりやすいのは、早稲田の辻監督だと思いますね。あれだけ理論的な大学で、ああいう監督をもったというのはいまいちばん大切なところだと。ハーフタイムでなんとおっしゃいましたか?とNHKに訊かれて「タックルです」。試合が終わって今日の勝因は?「タックルです」。それしかいわない(笑)。もうはっきりしてますもんね。だから僕は辻という監督はものすごく評価しているんです。

他の監督を見ていると、とくに僕の大学の監督などを見ていると、このやろうかなんか思ってしまう(笑)。その、ちょっと知り合いの方がいらっしゃるとたいへん失礼なんですが、何となく負けるのわかるみたいなところがあるわけです(笑)。

で、僕は一番大切なことは、高校生によく言うのですが、あいつがタックルに行ったら、次は俺がしてやるぞと。あいつだけに任せておけないという気持ちがないとラグビーをしちゃいけない。する資格がないと。そういう、仲間に感激するようなやつでないと世の中で通用しないと。いつも高校生に言っているんですけれど。

それでいて今年なぜ73対0でなぜ負けたのか。もちろん勝つ氣でいったんですが、ある3年生のいい選手だったが、じん帯をちょっと伸ばして、かばったのかどうか、身体を張っていかなかった、これが悪いことにチームに伝染してしまって、ひとりが上に行ったらみんな上にいく、下に行けばみんな魚雷のように下にいくのに、そういうふうになる。その選手ができなかつた、そうさせたのは僕なので、ものすごく反省しているんですが、タックルがやっぱりすべてだと。だから、辻監督はわかりやすくて、シンプルで、いいなあというようなことを思います。

日本ラグビーを強くするには

話は変わりますが、ワールドカップ。8強とか、最低2勝とかいって、私も理事として責任もありますけれど、先週福岡でたまたまサウナに入っていましたら、九州場所の関係で琴風閣・尾車親方といっしょになりました。その日は親方出番ではなかったようで、サウナでいっしょに相撲を見ていました。これはどこの人?モンゴル、これは?グルジア。外人多いですね。ラグビーもそうでしょう、みたいな(笑)。

はあそうですと。相撲もそうですが、外人が多くなって実力がものすごく上がりました。ところが人気が落ちるんです。これが間違いなくそうなる。親方衆に外人をあまり持ってくるな、ということが言われるらしいです。ところが部屋を強くしたいがために親方は外人を連れてくるということがあるらしいですよと。ああなるほどなど。これはまさしくラグビーもいっしょ。これはいいか悪いかはまた別の話。これは後で懇親会で酔っぱらったところで言います(笑)。

これはどうしたらいいか、皆さんにご意見をお聞きしたい。外人がいないと完璧に負ける。韓国にも負ける。外人がいるおかげでワールドカップまで行ける。そこをどうしたらいいか。8時過ぎの懇親会でそこをうかがえれば、こんど僕は自分の意見のようにして理事会で言いますから(笑)。いろんなことを教えていただきたいと思います。

2019年のワールドカップも皆さんのご協力がないと成功しないわけですが、なぜ招致できたかといえ

ば、いろいろな問題があったと思うが、森会長によるところが大きい。ここだけの話、私は森会長を実はあまり信用していなかった。早稲田のラグビー部入って2週間でやめたと。それはないだろうと(笑)ところがあの方が本当にすごいのは、高校のラグビー大会の開会式、閉会式には必ず行かれる。で、君たちがんばれと。何年か前は選抜の開会式で、歩き方が悪いと、東福岡が名指しで怒られました。指導者もなんだと。それは谷崎ですけど(笑)。そういうところの思いが強い。ラグビーに対する思いがとても強い。はじめはそういうふうに思っていなかっただけですけど。日本代表に強くなってほしいという気持ちは、今の理事会の中でもいちばん強いのではないかと僕は思います。たぶん、日本協会も宿沢さんが死ななかつたらよかったですけど(笑)。別に山に登らなくたっていいだろと(笑)。

彼が亡くなる二日前だか三日前だかに、いろいろ話があるということで福岡に来られて、金借りてくれとかの仕事の話の後で、呑みながら話をしたんです。非常にラグビーのことを一生懸命考えていらした。プロ化しなくてはいけないとか、世界から20年遅れているとも。ロンドンにいらしたのでそこらへんはよく見えていらしたのかなと。僕よりもひとつ年上なんですけど。

日本協会も考えを変えなくてはいけないのではないかと思います。たとえば、いまいっぱいすごい選手がいるが、彼らは大学に行かないでトップリーグにすぐ入るような国にならないと、すごい選手はすぐにトップリーグというようにならないと、日本のラグビーは世界に通用しないような気がする。大学に行って4年間遊ぶなど。勉強する以外のやつ、ラグビーしかしないやつはすぐ入れというように。そなならなきゃダメなんではないかと僕は思うんです。

今、サッカーでは世界で活躍している選手はいっぱいいますけれど、ラグビーはゼロです。海外のプロリーグでやっているのはひとりもいない。そこはやっぱり問題ではないかと。あまりいろんなことを言うとすぐにバッと怒られますんでここだけの話ですが(笑)、なにかそういうようなことを組織的にやらないと日本のラグビーは強くならないんじゃないかなという気がしています。



生涯の友を得る

その中で、高校生に最後の試合をほんとうにやったんだという達成感をもって味あわせられるのがいちばんすばらしい高校の監督だと思います。もしそういう試合をすれば、一生涯の友を得るという気がします。

高校生、17歳18歳が、お前らはわからないだろうが、60歳になればわかる。60歳になったら、ああラグビーやっててよかったなと思う。そのときはお前きついとか、苦しいとか、痛いとか(笑)、そういうことばっかりかと思うけれど、結局は素晴らしい友を得るぞと。そういう話をいつも子どもたちにしています。

子どもたちも子どもたちで、いいやつばかりで、うちで県の準決勝まで行くときに必ず保護者も呼んで、バーベキューかなんかをやるんですが、そのときに決意表明などを言わせる。ビール箱の上に立って、「明後日の東(福岡)との試合は死んできます」とかなんとか(笑)。よしいいぞー。「タックル頭から行きます」、よしいけー。すると「死んじやいやー」(笑)。でもそういうことを17歳18歳で経験するというのは、ものすごく大切なことだと。「死んでもいい」なんて他のスポーツでは思うことないですよね。でもそういうことを経験すると必ずそれが人生、生きていく上でプラスになると僕は思うわけです。

高校からラグビー、そして明治へ

僕もラグビーはたまたまやったんですが、ここに松岡さんて、小学校中学校高校までいっしょで、大学は九州大学といういいところに行かれた先輩がいらっしゃいますが、僕が始めたのは高校1年から。もちろんそのときはちびっ子ラグビーとかラグビースクールなんてなかったものですから高校に入つてからです。中学ではバレーボールをやっていました。なぜかというと、東京オリンピックで女子バレーボールが優勝しまして、やったな、いいな、ということで。中学でバレーボールやっていて福岡高校でラグビーをやっている先輩がたくさんいまして、で必然的にラグビー部に入った。ラグビーが何かはわからない。

入っていちばん最初に言われたのが、ラグビーは気合でやるスポーツだと。わけがわからない(笑)。ボールを後ろにしか回しちゃいけない。後ろにしかパスできないのになんで前に行くんですかと先輩に聞いて(笑)、そしたら、走ってるからだとか(笑)、分かりやすく言われたんですけども、なんだか分からなかつたり。

それを3年間やつたら、なぜか、先輩が強かったというのもあるんですが、全国大会に3年間連続で行けたんです。3年のときに諫早農林高校に準々決勝で負けました。そのときにロッカールームで泣いてましたら、当時の監督がばあっと入ってきて「試合に負けて泣くな!」と言われて。するとぱっと立ち上がって、それはもういいかげんな涙ですから、すぐ拭けば止まるんですね。怒られると。はいーと(笑)。

そのときに監督を見たら、目に涙が見える。泣くな、と言っている人が泣いている。当時おそらく六十二、三歳。それがものすごく強烈な印象に残っていて、ラグビーっていうスポーツはいいんだと。こういう老人をこんな気持ちにさせるなんてと。そこで、僕は決めたんです。大学でもラグビーやろうと。

ところが3年間全然勉強していない。で、これはまずいね、と。いうことになった。1年浪人して勉強するような男ではないですから(笑)。どうしようかなと思っていたら、たまたま明治大学の北島先生が九州に、今でいうとリクルートなんですが、ゴルフしに来られて、うちの親父がラグビーはやってないけれど明治で、先生が家に来られました。親父が緊張しまくりまして、今86歳ですが、お宅の息子さんぜひ明治にということで、うちの息子バカですからというと、いやバカがいい(笑)みたいな話になって。お前数字書けるか?(笑)はい大丈夫です。名前は、はい大丈夫です。受験番号と名前は絶対間違えるな(笑)。そしたら多分受かる。それは心強い言葉ですよね(笑)。は、わかりました!と。それで明治大学に入ったんです。

釜石へ

本来ならば明治大学っていう感じではなかったんです。そのときは、早稲田に憧れていて、今の早稲田ではあんまり憧れないですが、当時は身体が小さくて、平均体重が72kgぐらいで、トントントントンとボールを回して、トライをとるのがいいなあ、みたいな。ところが明治はもうゴリゴリ（笑）。僕が入ったときに千葉さんというセンターがいて、めちゃくちゃデカくて、おかしいんじゃないというような人もいまして（笑）。

とにかく北島先生という人は、真っ直ぐしか走るな、と言われて。今でこそ間とかスペースとか言いますけれど、当時はとにかく真っ直ぐ行けと。体重61kg。センターですよ。はあ？みたいな（笑）。

それで親父に手紙を書いて、明治をやめて早稲田に行きたいと。すると返事が来て、適性と意志みたいなことが書いてあって、向いているかどうかは北島先生が決める事であって、お前がやる気があるかどうか、そっちのほうが大切だとか、なんとなく電話ならばすぐに反論できそうなところ、手紙だとああそうかな、という気になってしまって（笑）、で、1年がんばって、そうしたらなんとなく道が開けてきたような感じで、愛校心というか愛部心も出てきて、明治でやろうかと。プレーにも余裕が出てきたりして。

ところが62kgぐらいの身体、今は77kgぐらいですが、なかなか試合に出られない。レギュラーに定着したのが4年からです。レギュラーになれなかつた頃に声がかかったのが新日鉄釜石。お前くすぶっているようだけれど来ないかと。そのときに釜石のラグビー部長だったのが、今東北大OBで八大学の幹事の三笠さん、スクラム釜石の世話役もやってますが、そのお父さんで東大野球部のOBの方が、八幡山の合宿所まで長靴を履いて来られて。そんな人がまさか新日鉄の部長さんとは思わなくて、君が森君かと。はい。来てみなーとか言われまして（笑）。自分でいいんすか。なんかみんな君が素晴らしいプレーヤーだと聞いているから、とかおっしゃってくださいました。そのときに決めたんです。

4年の夏にはじめて日本代表の合宿に呼ばれて、そうしたらいろいろな企業のリクルートの方から、来ないか来ないかと言ってくれまして。ところがいちばん最初に来て、ぜんぜん試合に出られないときに来て、それこそあの釜石の遠い所から来てくださった恩義というか、優先順位としては一番ですよね。今はいろいろ条件とかあっても、そんなものの冗談じゃないという。誠意だろ、みたいな（笑）。僕はそう思うんですけど。それで釜石に入ったんです。

三笠さんのいちばん下の息子が、東大に行って、東大ラグビー部の監督をやって、日本テレコムに行って、そこがソフトバンクに買収されて、今ソフトバンクの社員として福岡にいます。この間ラグビーの応援にも来てくれて、僕に、森さん本当に釜石の監督やってたんですか、と訳の分からぬことを言ってくる。73対0で負けたときに（笑）。このやろとかいろいろ思ったんですが、でもこれもなにかの縁かなと思いました。

4連覇が支えに

釜石に行って、本当に強くなったのは、僕の2年後輩の、あまり言いたくないけれど松尾が入って来てからで（笑）、本当に全盛期になったんです。

松尾はああしてますけれど、なかなか練習熱心で、そういうところをあまり見せない男ですが、常にハードな練習をしていて、もちろん天才的なプレーヤーではありますけれども、そういうことで勝ち続けて、僕は結局4連覇までいましたが、その後も勝ち続けて7連覇。その後神戸製鋼がやはり7連覇しましたが、それはもう価値がちがうと、自分で喜びに浸っているんです。神戸製鋼の7連覇はメンバーがほとんどいっしょですが、釜石はメンバーが4分の3ほど入れ替わっている。そういうサイクルの中

での7連覇です。

4連覇のときには僕は30歳。今なら身体のケアとかなんとかして34、5歳までひょっとしたらできたかもしれないが、当時は無理です。60何キロでしたから。でも、まず第一に7連覇することがわかつたらやってたんです(笑)。

4連覇ぐらいじゃないの、そろそろ…と思ってた。5連覇して6連覇して、7連覇となって、それだったらもうちょっと我慢すればよかったかな(笑)と思うんですが、でも僕が退かないと誰かが伸びて来ない、そういうこともありますて、譲ったということではないんですが、本当にきつかった。もういいと。実は28歳のときに、2連覇したときに辞めたいと言ったら、会社が来年係長にしてやるから、とかいわれて、そうなると平社員とは給料もだいぶ違ってくるし、といつても博多に帰れば課長だとか(笑)いろいろありましたが、やはり会社に恩義を感じたので続けることにしました。

で、3連覇して、所長のところにお願いに行ったら、もう一年やってくれと。そうしたら親父が釜石まで飛んできまして、もう建築業界もこうですから、いろいろ引き継ぎして世代交代もしたいとかお話をしたんですが、所長が、新日鉄というのは大きな会社で、お父さんもご存知かもしれないが、建築部門もやっている、もう一年いてくれたら、ガラスの発注については…(笑)そしたら親父の態度がコロッと変わって(笑)、いやまあ一年だったら全然やれるよな(笑)、もう本当に迷惑かけますみたいしたことになって、おいおい何しにきたんだと(笑)。結局やりまして、そして4連覇して、2年も引き止めて悪かった、ぜひ応援するから、といつてくださった。いま九州だけは仕事いただいてますが、全国的ではないです(笑)。

そのときにですね、4連覇してですよ、退職金が60万円ぐらいですよ。そりゃないんじゃないと。4連覇してそれはないよと。女房に言いましたら「3回に分けてくれるんじゃないの」(笑)、そりゃそうだよね、とか言ってましたが、やっぱり60万でした。それは引っ越しなどで使ってしまいました。でも結局8年間釜石にいたおかげで、かけがえのない経験をさせてもらったり、いろいろな仲間と巡り会えましたし、それが今の僕の支えになっています。



釜石の底力とは

3月11日の震災で、義援金もたくさんいただいたという話がありましたが、僕はその日はテレビで見てました。ああーっと言うばかりで。昔呑んでた所がばあーっと流されてしまい、次の日朝見たら全然わからなくなってしまって、そういう状況下、釜石シーウェイブスのGMは高橋善幸といって熊みたいな男ですけど、彼と電話がつながらなくて、やっと話ができたのは2週間ぐらいたってから。どうだ、と聞いても、どうもこうも、と。とにかくラグビーどころではないです、というようなことで、とにかく落ち着いたら行くから、と。

で、5月に関東学院と釜石シーウェイブスが試合をしたときに行きました。現地はテレビで見たような状況で、自分は何も悲しむ立場ではないのに涙が出てくるような風景で、なんなんだこれは、というような。

いっしょにやっていたフランカーの佐野さんという方が津波で亡くなられたというので、お線香をあげに行って、最初はお寺がわからなくて、探して行って、息子さんに香典を渡そうと会いに行きました、介護士をされているんですが、遠い九州からどうも、とかいわれて、お母さんによろしくね、といったら、実は母も亡くなりました、ということで、全然知らなくて申し訳なかったのですが、そのへんがなんともいえないむなしさというか、これはどうしたらいいのかな、という状況を目のあたりにしました。

そんな中で釜石シーウェイブスが今シーズン6勝3敗というのは本当にすごいことだと思います。トップリーグ昇格どうのこうのというそんな問題ではなく、あんな中で街を元気づけようとしてやったということだけでもすごいことだと思います。

そんなふうに、釜石にはなにかあるような気がします。それで皆さんから愛されているというか、やっぱり釜石だな、と思います。

で、なんで釜石があんなに強かったかと、7連覇もできたのかという話を先ほども控え室で訊かれたんですけど、これは単に練習したってことです。ばかみたいに(笑)。

ジャパンのカーワンがどう言ったか知りませんけれど、ジャパンが釜石の練習をしたら絶対に勝ちますね。練習量が圧倒的に少ないと思います。たぶん。釜石みたいに練習すれば必ず勝ちます。間違いなく。

ずっと走ってるんですから。もうやめてよ、というぐらいに(笑)。松尾ってのは長距離に強いんです。僕は長距離大嫌い(笑)。

それでもマラソン15kmとかやって、それが終わった後にフォワードとバックス分かれての練習です。走るばっかり。走る競技ですからなんて松尾は言うけれど、そらわかってるよそんなもん(笑)。

そういうことで退社させてもらって、30歳のときに福岡に帰りました。

本当に強いチームとは

自己紹介が長かったですが、福岡に帰って、ゴルフもやるようになって、仕事もしなくちゃならない、そういうしてようやくゆっくりできるかな、と思っていたところに、福岡高校のOB会というのが年一回8月の第一日曜日にあるんですが、たまたまそのときに出で行ったんです。すると古いOBたちが、昔は花園に行ってたがもう何年行つらんか、とか、おうおうと聞いていましたら、せっかく釜石を日本一にした森が帰ってきたのにどうしたことか。森居るか、はーいと手を挙げたら、お前誰のおかげでここまで…(笑)と。別にお前じゃないとは言いませんでしたが(笑)、お前やれと言われまして。最初にコーチを4年間やり、その後監督をやっています。計20年ぐらいになります。

そういうことをやっているおかげじゃないですけれども、福岡市の教育委員をやってくれと、なんで

もいいから思いっきりやってくれと言われて引き受けまして、今2期目で7年ぐらいやってます。

いちばん最初に朝日新聞から電話取材を受けまして、ちょうど駒大苫小牧高校の野球部の監督が選手を殴ったという事件があって、それについてどう思いますかと訊かれました。そら言うこと聞かなかつたら殴るのが当たり前でしょと(笑)、そうしたら体罰肯定派として出てしまつて、福岡市の教育委員の森重隆がこう言ったと。他に何人かの先生が肯定派で、あとは反対派。体罰なんてとんでもないといふ。

僕も16年間のうちに正直、2、3回ありましたが、なにもそいつらを殴ろうと思って殴った訳じゃない。あいつらは口答えは絶対にしない。「目答え」します(笑)。お前には言われたくないというよう。しかも聞こえないように「ちえっ」という(笑)。でもそれはわかる。態度でわかる。そこで舐めんなよと。そういうことが2、3回あった。でもそれはやっぱりこいつらをよくしたいとか、強くしたいと思ったからで。

今の東福岡高校の谷崎監督というのが、法政大学出身で、それはそれで立派な人ですが、まあ甘いですね。ラグビーは愛であるとか、なにが愛だ。わけわからない。笑顔です。なにが笑顔だ(笑)。笑顔で試合できないだろと(笑)。

ただこのごろ東福岡は変わってきたところがある。そういうところは僕はうまいですから、あのう、練習にいっていい? と(笑)。あ、来てくださいどうぞ、となって、相手をするのはAチームでいいですか、というからBチームでいいけどいくつまであるの? Eまであります。ええっ!(笑)ということで、2面グラウンドがある。人工芝で。立派なもんです。で、行きました。そうしたら、にわかに変わってきたところは、挨拶がよくなつた。こんなちは、とか、おつかれさまです、とかいうわけ。おお、やっぱり日本一になるとぴしっとするんだと。で去年のキャプテンだったのが、筑波大学に行きますが、これがトイレの掃除をしていました。「こんなちは」お前トイレの掃除やってんのか。「はい自分から」にこつとして。おお、すごいね。

そしてタックルバッグとか、ヘッドギアとか、そういうものがピシッと揃えてある。それをやれば強くなるかといえばそんなことはないけれど、強いチームっていうのはそういうふうになっていくんですね。そこらへんはスパイクもきれいにして揃えてあるし、そういうところを見て、ははあこれは東福岡は本当に強くなったのかな、本当に強いチームというのはこういうものか、というところを見まして、なるほどなど。

教育が直面している危機

話がそれましたが、教育委員をやっていて、今本当に教育がたいへんなことになっているということを感じます。体罰がいいとは言いませんが、大人が勇気がないというか信念がないというか、殴るじゃないですよ、殴るではないけれど、ぴしっと注意ができない、自分に自信がないというか、そういうところがある。でも、自分にそういうものがなければ教育なんかできないと思います。

すごいことがたくさんあるんですよ。モンスターペアレンツというのがいまして、なんでもかんでも文句をいう。苦情や要求を学校や教育委員会に言ってくる。それにいちいち事務局が対応しなくてはならない。モンスターペアレンツが出てくる理由が、社会全体における権利意識の増大、地域社会の崩壊、学校における相談体制の不備があるといいます。

苦情や要望の例というのがあって、自分の子どもはテニスが得意だが、学校にはテニス部がないのでつくつてほしい。これは転校しろみたいな話ですね(笑)。それから、下校途中に友達とけんかをしてけがをしたので学校は慰謝料を払ってほしい。登下校時に友達とトラブルになるので学校が送り迎えをし

てほしい（笑）。何様かみたいな。それから、クラスに気に入らない子がいるのでその子を別のクラスに変えてほしい。模擬試験と運動会の日が重なってしまったので運動会の日を変えてほしい（笑）。子どもはピーマンが嫌いなので給食からピーマンを抜いてほしい（笑）。宿題を忘れたぐらいで子どもを叱るとはいいったいどういうことだ（笑）。給食が必要だと言った覚えがないので給食費は払わない。小中学校の滞納が市で1億5千万ぐらいあるらしいです。担任はうちの子を問題児扱いした。内申点が足りずに入試に落ちたのは担任のせいだ。と、こういうふうな世の中になってきている。これをかえるのは僕らしかいない。皆さんしかいない。早朝公園でお年寄りがタバコの吸い殻をひろっていらっしゃる。よく見たらその横で中学生がたむろしてタバコを吸っている。これどうなってんだ！もしそれを注意したらブスッとやられるかもしれない。ひょっとしたらそうなるかもわからない。そのへんはこわいというか、警察に通報するのがいちばんかもしれないが、なんかそういう世の中になってしまっているところに問題がある。

ラグビーで何を伝えるか

教育の問題です。いちばん大切なことは、数値にならないことがいちばん大切だ、ということを教えてやらなくてはならない。それは何かといえばたとえば思いやりだとか、優しさであるとか、そこらへんがいちばん大切だぞ、数でかぞえられるものは大したことないんだぞ、ということをびしっと教えられる指導が今いちばん必要なんじゃないかなと。

高校のラグビーは先生方が一生懸命指導されているが、誰かのためにがんばっているのか、あいつのために身体を張れるか、先ほども言ったように、高校生が死んでもいいですと思えるような気持ちにさせる、そういう者が何人も出てきたら、ラグビーを通じて素晴らしい教育がされたことになるのではないか、というようなことを思います。

なんか自分の自慢話になりましたが、指導していくいちばん大切なのは、理論でもなんでもなくて、そこにいる者がそいつらを愛せるかどうか、高校生を愛せるかどうか、そこがベースにないとついつい勝機に走ってしまうようなことになる。そういうことを今の明治の監督には注意をしてやりたい（笑）です。

一時間、お話をさせていただいて、役に立つかどうか。役に立つ話は呑みながら、ということで（笑）いろいろな話を聞かせいただければと思います。

これからいつまで監督をやるかわかりませんが、高校生のラグビーを通じて、いろいろなことを彼らに教えて行きたいです。

この前テレビで明治対筑波の試合を見ました。やっぱり福岡から応援していたのは筑波大学（笑）。明治には福岡高校出身がひとりもいなかった。愛校心はなかったか、それはあるけれど、やっぱり子どもたちへの愛のほうが強いのか、ということで、一喜一憂してました。家内も筑波大学を一生懸命（笑）応援して。そういうことで、ぜひ筑波大学を応援していただきたい（笑）。どうもありがとうございました。（拍手）

（文責・帯広OB 小林）

各大学投稿

北海道大学におけるグラウンド芝化の状況と、

全国の国公立大学の芝グラウンドについて

北海道大学ラグビー部

平成23年度主務 山田 大志

北海道大学サッカー・ラグビー場を芝化するにあたり、現在ラグビー、サッカー、男女ラクロスの4部と学務部(大学側窓口)の間で芝化に向けての話し合いが行われている。現状としては、総工費に対して大学側が負担できると提示している額が半分以下に満たないために、使用団体側の負担が大きくなってしまう問題に直面している。そこでサッカーくじなどの補助金の利用によって、グラウンドの人工芝化の実現を目指している。

また今後の芝化の実現の参考にすべく、既に人工芝のグラウンドを所有している全国の国公立大学のグラウンド芝化に関する情報を列記する。芝のグラウンドを現在所有、もしくは予定している主要な大学としては以下の8校が挙げられる。(五十音順)

秋田大学 手形キャンパス陸上競技場(人工芝)

工学資源学部の創立100周年の記念行事の一環としてグラウンドの人工芝化を行った。総工事予算は約2億円で、使用団体側の負担はなかった。

帯広畜産大学 ラグビー場(天然芝)

1972年の学内施設の配置換えの際に天然芝のグラウンドが造成された。以前のグラウンドには石が多く部員の生傷が絶えなかったことも背景として存在した。総工事予算は不明だが、現在の芝の手入れはラグビー部員が行い、芝刈りはラグビー部顧問や大学の学務課が行っている。年間の維持費は肥料代が約15,000円、種子代が約30,000円かかっている。

九州大学 ラグビー場(天然芝:現在) (人工芝:将来)

現在の天然芝グラウンドは2009年に造営されたが、手入れが行き届いておらずほぼ土グラウンドと変わらない状況となっている。現在の九州大学のキャンパス移転に伴い、5年後にグラウンド移転を行い、その際に人工芝グラウンドを二面造営する予定である。費用はキャンパス移転費に組み込まれており全額大学側負担となっている。

京都大学 宇治グラウンド(天然芝+人工芝サブグラウンド)

ラグビー部OB会では1,500万円の寄付金を集めたが、集金方法は一人当たり5万円の徴収と、別途大口で1,000万円を集めた。天然芝の植え付けにあたっては、ラグビー場の芝生化の実績があるNPO法人の指導を受け、現役、OB、また医学部ラグビー部や地域の少年ラグビースクールなどの有志によって行われた。植え込みは6月末に行い、同年9月上旬に使用可能となった。現在はクラブハウス建設寄付を募っているとのこと。また大学キャンパスとこの宇治グラウンドは20km離れている。

東京大学 駒場ラグビー場(人工芝)

グラウンドを人工芝にするにあたり、当初は総工事予算の半額の4,000万円をラグビー部側が負担することとなっていた。当時はちょうど東大130周年(2007年)にあたり、記念事業として大学側が一般企業からの寄付金を募集していた。そこで大学総長と相談し、ラグビー部負担4,000万円の代わりにその10倍の4億円の寄付金を集めればよいという条件を提示してもらう。OB会長らの尽力により、企業から4億円の寄付金を集めることに成功したため、学生団体側の負担はなかった。維持費用に関しては実績ベースで考えると10年おきに4,000万円の費用がかかるとされるが、その額を誰がどのように負担するかなどは未定。

東京工業大学(人工芝)

近隣住民からの砂塵の苦情によって人工芝化が決定し、全額大学側によって人工芝化が実現した。総工費予算は約1億5,000万円。

名古屋大学(人工芝)

2004年からの独立法人化により、大学が地域との関係をより良好にする(土ぼこり苦情対策)、学生の課外活動支援を拡大する、などの背景から、大学経営陣の決断(予算)で人工芝化が実現。また大学向けの実績を残したい建設会社と、グラウンドを改修したい大学双方の利害がうまく合致したため、通常よりも安い予算で実現できたとのこと。

一橋大学(人工芝)

人工芝化には総工事費約1億円の半額の5,000万円をOB会が負担した。集金方法は、一般的なOBが20万円をベースとし、社会的地位に応じて寄付金が増額され、多い人では100万円を寄付したこと。また大学側は3000万円を負担した。現在はラグビー部の他には学内団体では男女ラクロス部が使用し、学外団体ではラグビーのクラブチームや近隣の高校が使用しているが、学外団体は人工芝維持費として1時間につき6000円を大学側に支払っている。

現在、グラウンドを芝化(天然芝、人工芝)している所は以上であるが、ラグビーの技術の向上やプレーヤーの怪我の防止を考えると芝化を進める事は必要であり、これを機に8大学足並みを揃え、グラウンドの芝化に向け活動を開始して行く事が重要であると考える。

学生時代から変化なし

東北大学 昭和62年卒
伊藤 学

今でも必ず年に1回、真夜中に寝汗をかいて目を覚ますことがあります。

「お前、そんな調子だとまた留年するぞ」

学校に行かなくては、と勢いよく布団から飛び出しますが何かおかしい。真っ暗な中で周囲を見回しながら、落ち着いてくると明日は重要な会議があることを思い出します。逆にそれが少し気を重くしますが、自分は既に社会人なんだと確認できた瞬間、安心してまた眠りに戻ります。

お世辞にも優秀な学生ではありませんでした。一年留年しましたし。

毎日は、夕方4時半からの練習を中心に回っていました。それに合わせてアルバイトをし、食事をとり、授業に出ます。授業を休むことはあっても、練習に遅れることは4年間を通じてほとんど無かったと思います。

一年生は練習前にタックルマシンを出し、ボールに空気を入れ、練習後は片付けとボール磨き。当時は皮のボールだったので、ツバをつけてピカピカになるまで磨きました。練習用のジャージはほとんど洗濯をすることなく部室内のベンチに放置。異様な臭いを発散していました。部室はそんなジャージとサロメチールの臭いで何とも言えないおぞましい状態。今の部室はどんな感じでしょうか。

酒もよく飲みました。毎週日曜日には試合があって、その後は飲み会。週中でも度々先輩の家や飲み屋に連れて行かれ、言われるがままに酒を飲んで酔いつぶれる、そんな生活。酒は苦手だったはずなのに、上級生になったら下を連れて飲みにいくようになりました。不思議なもんだなあ、と思います。

こんなこともありました。ある夏の日、枕元にある電話が鳴り、起こされました。「伊藤、もう5時だぞ。なんで練習に来ないんだ」という先輩からの怒りの電話。寝ぼけながら外を見ると薄暗く、「すいません、すぐに行きます」と言って電話を切り、急いでアパートを出てバイクにまたがりました。でも何か雰囲気がおかしい。人が歩いていません。確かに時計を見ると5時を過ぎているのですが、いつもの光景と違います。よく状況を把握できないまま一旦部屋に戻ると、また電話が鳴って、「だまされたな、まだ朝だよ。おやすみ」という言葉と、電話の後ろで何人かが笑っている声が聞こえました。どうしてかわかりませんが、なぜかほっとしてまた眠りについたことを覚えています。

24年前、携帯電話も電子メールも無かった時代です。

古いアパートで風呂も無かったのですが、部屋だけは広かったので仲間と話をする機会はたくさんありました。プライバシーのようなものなど無く、時には言い合いになることもありますでしたが、そんな密度の濃い生活の中で大人になっていったのかな、と思います。

先輩／後輩間では、今思うと「理不尽」という場面もたくさんありました。そんなことも含めたラグビー部が人間的に自分を成長させ、社会の中で揉まれてもなんとかやっていける素地を作ってくれたのかと思います。また、物事をやり遂げる集中力や最後の一踏ん張りができる力もつけてもらいました。一生懸命やらなければ目標を達成できないし、また一生懸命やっても時には願いがかなわないことも知りました。

当時は怖かった先輩たちですが、今は非常に心地よく話ができるのがとても不思議な気分です。

八大学ラグビーは、毎年楽しみなイベントです。学生時代はフォワードでしたが、去年はバックスとして参加し、生まれて初めてタッチキックを蹴りました。これがまた楽しい。体力的には厳しくて勝利に貢献することはなかなか難しいけれど、それはそれで構わないと思ってやっています。まだ八大学ラグビーが六大学として、それも千葉のNTT グラウンドでやっていたころ、右足のアキレス腱を完全断裂しました。それも試合前のアップの時に。その後、賢次郎さんの追悼試合を東大グラウンドで行った時には左足のアキレス腱を一部断裂しました。それ以来、家内や娘には「もうやめなさい」と言われ続けていますが、キックオフ時の緊張感、人とぶつかって相手を倒せた時の達成感、ノーサイド後の開放感、そんなことを仲間とともに感じることはとても幸せです。他大学の初対面の方でも、なぜか旧知の仲のように話をすることができるのも不思議です。今後も、楽しみのひとつとして八大学ラグビーへの参加は続けていきたいと思います。

学生時代からあまり変わっていないなあ、と感じます。卒業して24年、変わったのは体型だけかもしれません。でも、この「変わらない」ところが逆にすごいことだと最近は思うようになりました。私の学生時代は映画 ALWAYS の時代から随分あとですが、今の時代と比べると圧倒的にそちらに近い、そんな時代を私は仙台で過ごしました。この気持ちを持ち続けたいと思います。

お世辞にも優秀な学生ではありませんでした。

でも、ラグビー部に入って本当によかったです。

新・惑ラグビー元年、わが惑ラグビー生活

小樽商科大学 1974年卒業
木呂子 真彦

八大学ラグビーオブ大会も今年で第24回を迎えるとのこと、現在私自身が満60歳ですから、第1回大会に30代半ばで参加していたと思うと感慨一入です。当時はまさか60歳になっても「ラグビー」を続けているとは想像しませんでした。

48歳の時、この大会の懇親会の席上で、佐藤貞直先輩に不惑俱楽部に誘って頂き、惑ラグビーの楽しさを知り、関西に居を移しても、大学同期の中島文雄君と共に大阪の惑惑ラグビークラブに属し、「打倒不惑」を合言葉に闘志を燃やし、今年4月秩父宮ラグビー場にて開催された第60回三惑大会で、我ら惑惑ラグビークラブの赤パン(60歳代)は、東京の不惑俱楽部、九州の迷惑ラグビー俱楽部との巴戦で2大会連続の勝利を収めることができました。

本大会の機関誌『菱』第2号(1990年)を読み返すと、既に物故された大先輩、不惑俱楽部の先輩九州大学の守田貞義先輩が惑(40歳以上)ラグビーの不惑俱楽部の活動と毎年大阪惑惑ラグビークラブと九州の迷惑ラグビー俱楽部と惑の覇を競う三惑大会について、北海道大学の林喬義先輩が世界中の35歳以上のラグビー愛好家が2年に1度集う国際スポーツコンベンション、「ゴールデン・オールデイズ・ラグビー・フェスティバル」についてご自身の体験談を寄稿され、お二人の生涯スポーツとして惑ラグビーを樂しまれる姿に、「ああ、そうか」と私自身知らず知らずのうちに諸先輩に導かれ、惑ラグビーの道を歩んでいるのだと実感せざるを得ませんでした。

守田さんは、その後2006年兵庫県で開催された国民体育大会で、90歳の「世界最高齢現役ラガー」として第1回日本スポーツグランプリを受賞されました。受賞式当日、式典に天皇皇后両陛下がご臨席されるため厳戒態勢のホテルにお祝いに駆け付けた時、「90歳になっても、試合で走れるよう毎日脚の筋肉を馴らしながら徐々に走り出す練習をしていますよ」と語られ、その末だ衰えぬラグビーへの情熱に正直驚きました。



でも、守田さんでさえ吃驚される、世界初の紫パンツ（80歳代）の試合が、今年秩父宮ラグビー場で開催された第60回三惑大会の記念行事として、全国から80余名の紫パンツのラガーを集め、東西対抗戦の形で実現しました。レフリーは真下昇日本協会副会長・理事が務め、試合は結局14-14の同点引き分けに終わりました。来年以降もこの試合は行われる予定なので、もしかすると、10年後には高齢化社会の象徴となる世界初のゴールドパンツ（90歳代）の試合さえ実現するのではないかと楽しみにしています。



林先生とは30年前札幌在勤時代に札幌有惑ラグビーフットボールクラブの方々とともに札幌少年ラグビースクール創設に係わった時にご一緒しました。林先生は、「ゴールデン・オールデイズ・ラグビー・フェステバル」という国際的な催しを「惑ラグビー発祥の地」日本へ誘致するのは困難との感想でしたが、不惑俱楽部の先輩内山健三さん、迷惑ラグビー俱楽部始め地元福岡の方々の大会誘致にかけた情熱と熱意が実り、今年10月28日から8日間、アジアで初めて福岡市内の国営海の中道海浜公園等3会場にて世界から3千名のラガーを集め開催される予定です。将来日本の他の地域が開催地に立候補し、十数面の芝生グランドの確保等開催条件の高いハードルを必ず乗り越え、再び日本で開催される日がくると確信しています。今回の福岡大会は、まさにその試金石ですので、是非8大学OBの多くの方々が参加されることを期待しています。

ラグビー10周年

東京海洋大学海洋科学部 平成22年度卒業
同大学院 平成24年度卒業
小松 克偉

私は高校の時からラグビーを始め、高校卒業後も学部、大学院とラグビーを続けてきました。15歳の時から始め現在25歳、今年でラグビーを始めて丁度10年という節目を迎えました。ここまで私がラグビーを続けることができたのも、チームメイトやスタッフ、家族という周りの方々の支えがあったからに他なりません。改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。振り返れば、ラグビーからは3つの涙を教えてもらいました。この度はそのエピソードを紹介します。

読んで下さる方々の思い出にも多少は重なる部分があると思いますので最後まで読んで頂けたら幸いです。

『悔し涙』

高校生活での最後の試合となった時でした。勝てば県内1位の強豪校と当たる予定で、チームもその高校に標準を合わせていました。しかし、相手のペースで試合は進み自分たちのチームは空回り、その結果が敗退でした。まさか、ここで引退するとは思わなかつたと後悔だけが残る試合でした。自分は本気を出せたのか、勝ちたいと常に願ったかと絶望に陥り涙が止まりませんでした。試合中、肩を脱臼しながらも戦い続けましたが勝利には届きませんでした。この後悔から相手を見くびらないことを心がけ、試合は常に挑戦者として戦うようになりました。

『嬉し涙』

大学3年生の秋の公式戦プレーオフの試合でした。人生で初めての嬉し涙でした。相手は、前年度大敗を期した武蔵工業大学(現 東京都市大学)でした。試合は、周りの予想を覆す大逆転劇でした。後半のラックからのフォワードサイド攻撃はチームメイト全員が気迫あるプレーで果敢に相手ゴール前に攻め入りました。チーム全員の心が一つとなり研ぎ澄まされた集中力で勝ち得た試合でした。ノーサイドのホイッスルの直後、嬉しさのあまり涙が止めどなく溢れ出てきて仲間と抱き合いました。このことは今までの人生で一番嬉しかったことであり、これから先の人生の糧と自信となっています。

『寂し涙』

大学4年生の最後の試合となった秋の公式戦プレーオフの試合でした。相手は、前年度負けてしまった東京学芸大学でした。昨年度と同シーズンのリーグ戦の借りを返す大一番の試合でしたが、後半の追い上げも残り5点が遠く、再び嬉し涙を流すことができません

でした。しかし、なかったと言えば嘘になりますが、悔しいという涙はほとんどありませんでした。試合中、勝つためだったらどんな怪我も厭わないと思い必死でタックルにいきました。試合中の記憶は殆どないほど興奮状態にあったのかもしれません。ただ、試合終了のホイッスルの後、もう本気でラグビーをすることはないのか、一緒に戦ってきた仲間と同じ目標を掲げてラグビーをすることはないのか、と寂しさの涙が頬を濡らしました。

ラグビーから教えてもらった3つの涙は、辛かったことと嬉しかったことを含め、今の自分の大きな支えとなっています。今後も、時間の許す限りラグビーを続けて行きます。もしかしたら、これから先ラグビーは私に4つ目の涙を教えてくれるかもしれません。それに出会う為にも懸命に取り組んでいきます。

ラグビーを愛する皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りしております。

「夢」ワールドカップ出場

九州大学

昭和46年卒 丸田堅次

我々ラガーマンにとってのオリンピックは、4年ごとに行われるワールドカップラグビー大会。この大会に参加し、勝つことは並大抵のことではない。

第一回のワールドカップは、南半球のニュージーランドで開催された。実はこの年の第5回ゴールデンオールディズ世界大会もニュージーランドのオークランドを中心に開催された。初めての海外旅行、ラグビー遠征は私が39歳の時であった。小学生の4人の娘たちを家内の両親に託し、夫婦で8日間の「不惑俱楽部」海外遠征に参加した。その時の旅行記の一節を転記。

「ラグビー国際試合観戦

イーデンパークで行われたオークランド対フィジーの南太平洋チャンピオンシップの試合を観戦した。イーデンパークはオークランド最大のラグビー場で6万5千人を収容出来るのだそうだ。ほぼ満員のスタンドで見守る中、オークランドが66対7の大差で圧勝した。本場のラグビーをまのあたりにして手に汗を握る興奮を覚えた。イーデンパークのグラウンドでは時々、カモメの群れが上空を飛び交い、またプレーをしていない側の芝の上に降り立つ。得点は電光掲示板で表示される。時間の関係でノーサイド5分前に退席したが旅の疲れを忘れ、興奮した。」

「開会式

赤白のジャージに、同色のストッキングをつけ、上にハッピを羽織り、不惑の文字の入った日本タオルを巻いたスタイルこれが我がチームの入場行進の服装だ。外人には、ハッピ・ハチマキと言ったスタイルがとても珍しいと見て、しきりにカメラのシャッターを押し、いっしょに写してくれと頼まれた。

外のチームもそれぞれ趣向をこらした格好をしている。縞の囚人服を着たチームや、看護婦の格好をして、ビールのリングル液をぶら下げタンカに乗せて行進するチーム。顔を緑に塗り頭に風車を乗せたチーム。赤いくちばしをつけ、鳥の服装をしたり、上から下までピンクに統一したチーム。さながら仮装行列である。

私は日本から不惑の団旗を運んできたので、行進のとき旗の端を持たせて貰った。足首まで芝で埋まるような素晴らしいイーデン・パークのグラウンドを胸を張って行進した。スタートする時、昨夜お世話になったC o r n e s 夫妻にあった。

行進が終わったあとスタンドで外のチームの行進を見物した。玉野先生と寺井さんは再びグラウンドに降りていき、アダムとイブの扮装をしたモデルとしきりに肩を組み記念撮影をしていた。スタンドから冷やかしの口笛が吹かれていた。

入場行進の後は、女性のオークランド市長の演説を始め、大会関係者のスピーチがあったが、

残念ながら理解できなかった。マオリ族の戦いの踊りや、歌等ショーが続いた。」

昨年の9月、連休を利用してニュージーランドを訪問。そのときの写真の一部を掲載。



桜惑クラブ森園ご夫婦と



大会シンボル



NZのパブのラガーメンと



イーデンラグビー場



併設のクラブ



みんなでビールで乾杯



フェイスペインティング



後ろが南ア-ナミビア戦会場



試合会場（ノースショアー）オープニング



南ア 87-0 ナミビア



試合後の興奮状態

今大会のジャパンは勝利に見放された。私は、ワールドカップ出場の夢を見た。選手選抜の時に、「君は今年は戦力外だ。4年後のロンドン大会を目指してくれ！」カーワンに声を掛けられて目が覚めた。4年後は、私は68才。その夢に向かって、ゴールデンオールディズで頑張ろう！！

冗談はともかく、十代、二十代の日本の全ラガーマンがワールドカップ出場を目指せば、ワールドカップでの勝利は夢でなくなるだろう。



ニュージーランドに在住している孫娘「アリーナ=5才」がオークランドの「Takapuna Rugby Club」でトレーニングを開始した。うれしい話である。

ワールドカップ出場を目指して、私もトレーニングをがんばろうか！！夢を正夢に？？？

元気いっぱいでした

帯広畜産大学 昭和55年卒
小林 誠

一昨年口蹄疫に見舞われ、甚大な被害を被った地元を元気づけようと奮闘した「川南ラグビークラブ」。過酷な年を乗り越えて、昨年3月19日からは町をあげての「復興ラグビー祭」を計画し、全国からクラブチームが集って盛大に行われる予定でした。しかしその直前に東日本大震災が発生し、その開催は中止となりました。

同クラブには、八大学からは2010年大会の収益を義援金として送り、そのお礼のメッセージが昨年の『菱』にも掲載されました。私はかねてより現地をこの目で見たいと「ラグビー祭」には出かけるつもりでいましたが、実現は叶いませんでした。

それでもいつかは川南へ行きたいとチャンスをうかがっていたところ、2月に隣町の都農町が主催する「都農・尾鈴マラソン大会」があることを知りました。距離はハーフ。日頃の運動不足親爺としては完走目標でのエントリです。

この大会、昨年は鶏インフルエンザのために中止となっていました、今年は地元としても待ちに待ったものとなったようでした。当日は、川南クラブのマネージャを務めた役場職員の河野英樹さんといっしょに走りました。

スタートとゴールの市街地以外は沿道の声援もまばらな、でも時折出会う人たちにはとても温かな拍手をもらいながらの2時間あまり、消毒の石灰で真っ白になった畜舎もいくつか目にして、海岸沿いを往復、河野さんともども、なんとか制限時間内に完走することができました。東京マラソンもいいけれど、田舎のレースもなかなか味わい深いものがある。これからは運動不足解消も兼ねて、各地のマラソン巡りもいいかも、という気にさせられそうでもあります。

もうひとつ印象的だったのは、レースの後、河野さんに誘われて参加した「川南の四季を食べる会」というイベントです。農協と漁協が連携して、地元の方々が、自慢の料理を持ち寄って楽しむという会で、その日は「冬を食べる会」。「故郷でとれた四季折々の旬な食べものを少しだけ皆さんにもおすそ分け」という趣旨の会で、農協会館の大会議室に150名が参加してにぎやかに行われました。

銘々が勝手に持ち寄るのに、どういうわけか重複がないのが不思議な約80の料理。海・山・川、和・洋・中華、おつまみからお菓子まで、豪華なものもあれば、ごく普通のおかずもある、様々な皿を巡って飲んで食べて、みんなが笑顔。数年前から「川南町の良いイメージづくり」と「人と自然の関係を大切にする」ことを基本に据えてコツコツと積み上げてきた催しが、会を重ねる度に参加者が少しずつ増えてきているとのこと。口蹄疫後

はその思いもまた一入となったことは、私にも実感できるものがありました。川南クラブや高鍋高校ラグビー部OBの存在感もあり、私は筋肉痛も忘れて、夜が更けるまで美味しい楽しい時を堪能させてもらいました。

先日送られてきた当日の資料（＝すべての料理リストと会場スナップ）の表紙にはこう書かれていました。

「悲しみを強さにかえ またここで一步踏み出せる だって川南が好きだから… 負けるもんか開拓魂」

このたびの被災地でも、こうした集いがいつか必ず… と願わざにはいられません。

八大学ラグビーOB会に寄せて

名古屋大学 昭和46年卒
岡部 登

‘12，3，22

名古屋大学46年卒の岡部でございます。

八大学「菱」に執筆を依頼されまして、筆を執っております。

小職、この3月で63歳になりました。プラントメーカーに勤めておりまして、東京在住とは言え、うちを空けていることが多く、この八大学ラグビーの試合にも、この歳に近くなるまで、なかなか参加する機会がありませんでした。

実は、現役時代は、今、渦中の原子力発電所の建設をやっておりました。やっと、会社の方も一線を退き、今年は、八大学に出してもらおうと思っていましたが、その矢先に、3/11の大災害が起きてしまい、その後は、全てを放り投げて、福島に行っておりました。当事者の一人として、汚染水の処理プラント作りほかをやっておりまして、下の写真のように、テレビに写るとおりの格好をして、働いていました。

昨年の八大学ラグビーは、確か5月21日だったと思いますが、前夜、福島から戻り、何とか翌日の試合に参加したことを覚えています。最近、係りの方から、プレー中の写真をいただきましたが、ボールの近くで、うろうろしていたのは覚えていますが、写真のようにボールを持っていた記憶はありません。小職にとっては、両方とも、昨年の大きな出来事でしたので、うちのリビングに飾ってあります。



(福島で、5月初旬)



(八大学 5/21)

後先が逆になりましたが、福島の事故については、福島県の皆様を始め、日本中、世界中の皆さんに大変なご迷惑をおかけすることになり、本当に申し訳ありません。プラントの方は、昨年末で、まあ落ち着いたと言えるところまで来ましたが、更地にするまでには、さらに何十年と気の遠くなるような時間がかかりますが、継続して、復旧に努めて生きたいと思います。

今、原子力は、非常な逆風ですが、ただ、どんなエネルギーでも、リスクなく、安価で、安定的に、手に入れるのは、そう簡単ではなく、また声がかかる時が来ることを、辛抱強く待ちたいと思います。

話は変わりますが、名大ラグビー部の関東支部のO B会を3／10に開催しまして、20名が集まりました。酒を飲みながら旧交を暖める会でしたが、いつしかラグビーの話になり、そして、八大学が、共通して目標にしている全国地区対抗戦の話題になりました。今年は、選考基準が、少し変わったのか、8校のうち、国立大学から3校(九大、阪大、新潟大)が出場し、また、北大は、その上の大学選手権に回った。という報告があり、名古屋大学も、東海リーグでは、もう少しで、手の届くところにいるではないか、後輩が、何とか地区対抗に出られるように、もっと応援しなければならない、そのためには、学生の試合を、もっと見に行こう、O B会費くらいは、きちんと払おうなど、久々に、母校の応援で盛り上りました。

そして、気持ちよく酔っ払い、最後は、肩を組んで部歌を歌い、今度は八大学ラグビーで、また会おう、ということで、お開きになりました。

八大学O B戦で、また、会いましょう。

日本ラグビーの未来は？

長崎大学昭和 59 年卒
大森 謙太

私は、昭和 55 年に長崎大学に入学し、大学 4 年間と社会人になって暫くの間ラグビープレイヤーでした。最近のうれしい話題（ちょっと古いかもしませんが）としては、八大学の年末講演会で講師を引き受けていたジョン・カーワン氏の目標のひとつであった「日本へのワールドカップ招致」は実現しており「2019年日本開催決定」になった事です。

また、7人制ラグビー男女のオリンピック競技昇格決定というニュースもあり、世界的にはラグビー界は上げ潮の状態であると言えます。

但し、日本ラグビー界という視点に限定すると、残念ながら、まだまだ発展途上の状態であると言わざるを得ません。現在のラグビーのルールについても、身体能力の高いチーム有利なルールに偏っている感じがしています。スクラムとか、ラインアウトとかの式本が得意とする巧みな技が封じ込められている感じです。

先のワールドカップでは、我らがチーム JAPAN は強豪揃いのプール A の 5 チームの中で 3 連敗中と苦戦し、既に決勝トーナメント進出は絶たれた上での第 4 戰でしたが、残念ながら最終のカナダ戦は、途中まで 8 点リードを守れず、引き分けに持ち込まれてしまいました。23 - 23 です。

ただ、この試合は、追いついたカナダをほめるべきでしょう。前回大会でもカナダと対戦し、日本が追いついて引き分けた相手ですから、意地でも負けたくなかったのでしょう。日本にとっては、ワールドカップでの勝利はまだ 1991 年大会のジンバブエ戦での 1 勝のみなので、また次の大会にその課題は持ち越されました。

やはり、他のスポーツを見ても、勝つことで国としても認知されますし、その後の競技人口の増加やマスコミでの取り上げ方も変わってきます。いろいろな方が、勝つことだけが全てではないとも言われますが、最終戦はいいトライがあっただけに、残念です。

何とか、これからの方々に夢を与える事で、ラグビー競技者、ファンの裾野を広げ、日本ラグビーの特性を生かしたゲームプランを確立し、2015 年イングランド大会を好成績で乗り切り、2019 年にいい感じで W カップの日本開催にこぎつけて欲しいと願っております。

一人一人は小さい力が、結束することで大きな力になることは、女子サッカー「なでしこ JAPAN」の活躍や東日本震災復興等でも証明されています。

「継続は力なり。」選手も、ラグビーファンもみんなで頑張りましょう。

編集後記

昭和46年 九大卒 丸田 堅次

2011年3月11日の東日本大震災から1年を経過した。いまだに死者、行方不明者の数が増え続けている。亡くなった方々のご冥福をお祈りするとともに、そのご家族、友人たちをはじめ、関係各位のご心痛を思うと涙がとまらない気持ちだ。

行方不明の方々の確認が早くとれればと思う。

東北大学の震災状況については東京で講演を聞く機会があった。

そのキャンパスで今年の八大学ラグビー大会が開催される。関係各位のご英断に感謝するとともに、本大会が成功裏に開催されることを祈っています。

世界のラグビー界でもクライストチャーチでの地震の影響でワールドカップの試合が他の町で開催された。

タッチフットが授業に採用されることになった。子供たちが、確実にラグビーと接触するチャンスが増えている。女子ラグビーも日本国内だけでなく世界中で広まっている。

そういう中で、「2012ゴールデンオールディズ・ワールドラグビーフェスティバル福岡」が今年の10月28日から開催される。

八大学の皆様がチームを組んで参加されることを切に望みます。



2012/05/03